

さんだ里山スマートシティ ワークショップ実施報告書

令和3年12月
三田市

目 次

I 実施概要	-----	P1
II 実施結果	-----	P2

I 実施概要

(1) 日時および場所 ※同じプログラムを2回開催

日時：①令和3年11月20日（土曜日）13時～16時30分

②令和3年11月21日（日曜日）13時～16時30分

場所：三田市役所本庁舎3階302会議室

(2) 参加者

- ・15歳以上の市内在住・在勤・在学者
- ・ワークショップの様子をYouTubeでライブ配信
11月20日（土曜日） 21名
11月21日（日曜日） 21名
ライブ配信参加者 12名

(3) 講師・サポート

●さんだ里山スマートシティアドバイザー

- ・神戸大学大学院システム情報学研究科准教授 なかむら まさひで 中村 匡秀 様

●さんだ里山スマートシティ共創会員

- ・一般社団法人社会デザイン協会（栃木県日光市）代表理事 すずき ひであき 鈴木 秀顕 様
- ・ヒューマンフロント研究所（兵庫県三田市）代表 まえかわ たかあき 前川 隆昭 様
- ・NECソリューションイノベータ株式会社 関西支社 プロフェッショナル
かわい まこと 河合 誠 様（11月20日のみ）

(4) 目標

- ①参加者の「さんだ里山スマートシティ」への理解を深める。
- ②ワークショップを通じて実現の可能性が高い案を創り上げる。
- ③ワークショップ後もオンライン等を活用した参加者とのコミュニティ形成を図る。

II 実施結果

私たちが住みたいスマートシティってどんなまち？ （さんだ里山スマートシティ市民ワークショップ）

日時：令和3年10月20日（土）13:00～16:30

10月21日（日）13:00～16:30

場所：三田市役所3階302会議室

プログラム

10/20 10/21 (共通)	オリエンテーション 「さんだ里山スマートシティ基本構想（素案）」について	
	チームビルディング・アイスブレイク（自己紹介）	[進行] 中村 匡秀 様 前川 隆昭 様
	ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」 ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」	[進行] 中村 匡秀 様 鈴木 秀顕 様
	スマートシティ実現に向けたデジタル技術の紹介 「ICT、IoT センサー等の活用」	[進行] 中村 匡秀 様 河合 誠 様 (11月20日)
	ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」	[進行] 中村 匡秀 様

ワークショップ

4つの班に分かれて、アイスブレイク（自己紹介）を行った後、ワークショップ ①②、講師による講義、ワークショップ③を行いました。

ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」！

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」!

■ 農業など

- 農家の後継者がいない
- 耕作放棄地が増え、獣害がひどい

■ 教育など

- 1つの学校の子どもの数がへっている
- 学校が遠い(物理ではなく精神的に)

■ 医療や健康など

- 近所での出来事。娘さんがひとり暮らしのお父さんを見にみえて、昨夜8時から16時間床に足を投げ出したままの姿を発見し、救急車を呼んだ
- 食育への意識が足りない。健康への意識が足りない

■ まちの魅力・買い物など

- ニュータウンと他エリアの交流が無いのでは?
- どこでもWi-Fiが入ってほしい
- 三田阪急がなくなった

■ ゴミ・環境など

- 将来ひとり暮らしで足腰が悪くなった時ゴミ出しが出来なくなり、ゴミ屋敷となる

■ 交通や移動など

- 高齢者や障害者の交通手段の確保ができない
- 道(歩道)が段差が多い
- 病院・買物が不便になる
- バス停までが遠い
- バスの便が悪い
- 車の免許がなくなる
- 山間部の交通手段が少ない
- 病院・スーパーへのバスがあればいい
- 坂道が多い。登りが大変になる
- 駐車場が不足している
- 横山あたり(北神戸に続く道)が混みがち
- 市街地、ニュータウンと農山村地域が遠い
- 公共交通機関が高額

■ 自治会・地域活動など

- 自治会参加率が低い
- コロナ禍でボランティア活動休止中
- サークルで施設を予約する時、高齢者が深夜12時過ぎにネット予約しなくていけない

■ デジタル化など

- 市民のITリテラシー度の差が大きい
- 情報が多すぎて頭に入らない

■ 行政など

- 余った公共施設が利用されていない
- 市民税が高い

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・市内の平日人口と休日人口の差（店等が定着しない）
- ・市外の人ที่ไม่来ない
- ・若者が遊べる場所が少ない
- ・市民のニーズが学校にも届いていない
- ・店や施設の情報がわからない
- ・アプリの混在で一元管理できていない
- ・世帯への情報はあがるが、学生向けの情報は少ない
- ・大学生のコミュニティーが少ない。学生がどこにいるかわからない
- ・市の広報やタウン誌は紙ベース

● 理想のまち

- ・若者が遊べる場所がある 映画館、カフェ、レストラン、総合レジャーセンター、ユニバーサルスタジオジャパン、遊園地、水族館
- ・市民専用ポータルサイトと学生専用ポータルサイトで情報やニーズが連携
- ・遊べる場所の情報の集約
- ・学生の SNS だより

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「若者と三田市民が交流できるポータルサイト」

三田市には若者が遊べる場所が少ないという課題について考えました。遊ぶ場所が少ないということは、学生が時間をつぶせる場所・いきいきできる場所があまり無いということです。

その原因として、学生に三田市の情報があまり伝わっていないのではないかとということが考えられます。三田の情報を知りたいとき、誰に聞けばいいかわからないことがあります。学生は SNS はよく見ますが、市の広報物はあまり見ることはありません。

様々な情報を一元管理することが出来れば、もっと情報を広く伝えられると考えます。例えば、三田市の広報誌は紙の媒体で配布されていますが、それがデータで扱えれば、若者がよく利用する SNS でも扱うことが可能です。それがきっかけでコミュニケーションが広がるのではないのでしょうか。

市民向け情報のポータルサイトと学生向け情報のポータルサイトが連携して、若者が遊ぶ場所の情報や働く場所の情報が得られるような仕組みを考えました。



ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」！

■ 医療や健康など

- 医療への不安。必ず受け入れてくれる病院
- 親の介護スペース

■ まちの魅力・買い物など

- 同業他社がすくない
- フラワータウンに良い店が少ない
- 気軽に入れる喫茶店がない

■ ゴミ・環境など

- たき火をするので空気が汚れる
- 夜おそくまで飲んでさわいでいる
- 里山の衰退

■ 交通や移動など

- SL が走らない
- 空港が遠い
- 車ありきの生活
- 割と大阪に行くのがめんどくさい
- 免許返納すると不便だからそのまま
- フラワー⇄ウッディ⇄駅前 移動が不便
- 車に乗らなくなった時（免許返上）バス便が少ない→コミュニティバスは？
- 東京が遠い
- 車がないと不便
- 全てのインフラが遠い

■ 自治会・地域活動など

- 自治会・まち協で役員のなり手が少ない（高齢化）

■ 人とのつながり（コミュニティ）など

- ニュータウンの高齢化 空き家の増加
- 死んだ親の残した物が家をふさいでいる
- 高齢者のおたすけ隊
- 高齢者と若者の交流が少ない
- 高齢者は出かける先が必要 カルチャー教室の開催

■ デジタル化など

- ネット通販は不安あり（サギ）
- 高齢者はデジタル活用が難しい（ネットでの申込み…）
- FAX をつかえない人がいる
- スマホを持たない人への連絡に困る
- SNS の文字数が少ない
- 情報格差＋フェイクニュース
- IoT/IT の脱炭素

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・まちの魅力が少ない
- ・高齢化
- ・交流（コミュニティの希薄化）
- ・交通環境

● 理想のまち

- ・起業促進、企業誘致により人が増える
- ・新しい人が増えることで自治会が活性化しコミュニティが行政の手が届かないところをサポートする

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「フラワータウン2.0」

三田市の中でフラワータウンは一番初めのニュータウンであるため、昨今は空家問題や高齢者問題といった課題がリアルに出ています。まずそこに取り組むべきと考えました。世代を超えて住みたい街へを目指します。

高齢者問題というのは、高齢者が元気でないのが問題であって、高齢者が元気で活動できるのであれば問題ではありません。

そこで、高齢者の元気・空家問題・若者の活躍の場という三点を考えました。

- ①高齢者が元気に活動するということは、元気に移動するということ。
- ②多世代の交流や協議の場を作って、全ての世代がwin-winとなるように。
- ③その中で高齢者の見守りも考える。

フラワータウンの交通を再設計し、フラワータウン版 MaaS (Mobility as a Service) を作るうと考えました。そこには、親しみが持てる自動運転バスを走らせたいと思います。他の地域で実際にファンクラブが出来るようなバスがあります。高齢者や子連れのお母さんが利用しやすいよう運行し、運営は若い世代が行います。

その事業を見守り・サポート・ヘルプの組織に広げていき、それが若者の活躍の場、やりがいにつなげていけるのではないのでしょうか。高齢者の移動の情報を AI で分析し、あまり活動できていない人にはサポートできるようなことも考えます。高齢者の方が利用しやすいように、テレビを使って操作したり案内を見たりできるようにすることを考えました。

フラワータウンはモデルケースであり、将来は他のエリアにも広げられるのではないのでしょうか。



【11月20日3班（チーム名：いけいけ）】

ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」！

■ 農業など

- 田畑がつぶされて駐車場や建物が立つのはさびしい

■ まちの魅力・買い物など

- 公園整備・利用

- 銀行ATM減少

■ ゴミ・環境など

- 雑草

■ 交通や移動など

- 信号多すぎ

- ガソリンの値段が高い

- 宅地の周囲に駐車場がない

- いずれ運転できなくなるが車がないと生活できない

- 通勤時間がとても長かった

- 駐車場ない

- 道が暗い

- 三田市って坂が多い

- 動く歩道

- 学生の通学手段

- 老人の移動手段

- 巡回バス対策

■ 人とのつながり（コミュニティ）など

- 地域の居場所（多世代交流）

- 引っいても居場所（がある）

- 引きこもり

■ デジタル化など

- スマホ・PCセキュリティ

- 市内全域のFree Wi-Fi 導入

■ 仕事・働き方など

- 共有のオフィス

- リモートワークの拠点

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・ 診察を受けるまでの時間
- ・ 病院がめっちゃ混んでる
- ・ 病院が遠くなると行きにくくなる
- ・ 人口あたり医師数が少ないのでは
- ・ オンライン診療できる病院が少ない

● 理想のまち

- ・ 医療機関がカルテを共有する
- ・ オンライン診療を進める
- ・ 待たずに受診できる

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

課題は、病院の待ち時間の長さを何とかしたいということを考えました。病院で1,2時間待つのは非常に大変です。その待ち時間に利用してもらうために、病院で iPad を貸出して使ってもらう仕組みです。

病院としても、ただ iPad を購入して提供するの難しいと考えますので、例えば医療デバイスの機器のメーカーと連携し、同意がある人のデータが提供できたり、画面に保険サービスのCMが流れて、それを30秒見ると使えるなどといったことで、うまく導入して、それを利用して待ち時間を可視化することが出来るのではないかと考えました。



ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」!

■ 農業など

- 畑でキャンプしたい
- 畑しごとをしたい

■ 教育など

- 子どもたちに文化・歴史を伝えていく
- 子どもの才能を伸ばす。生かしてほしい
- たくさん本を借りたい

■ 医療や健康など

- 頭を使ってボケ防止

■ まちの魅力・買い物など

- にぎわいのあるまちの雰囲気

■ 自治会・地域活動など

- 市民活動の後任者が見えない

■ 人とのつながり（コミュニティ）など

- 地域の対話を引き出す
- 世話焼きさんが必要
- 人間関係が下手だ
- 何を考え、何をしたい人がどこにいるのか分からない
- 若者と同じ土俵がない
- 友人ができた。でもシニアのみ
- あいさつ
- 対話ができてない
- 仕事、家事に追われて人と人のつながりが持てない

■ 交通や移動など

- 快適な移動網
- 田舎に住んで車を持たなくても生活できる環境

■ 防災など

- 安心安全災害に強い

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・ 人のつながりが薄い
- ・ 人との対話が少ない
- ・ 仕事に追われて人とのつながりが持てない
- ・ 市民活動の後任者が見えない

● 理想のまち

- ・ 人と人をつなぐ世話焼きさんが必要
- ・ 人と人のつながりがあるまち

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

子どもが希望を持てるまち、Evidence Based Hope ということを考えました。色々な情報を一元管理することで、ホームページで自分に関係のある情報だけが表示されるようになれば、ホームページを見るようになります。

それらの情報の中に健康データを取り込みます。母子健康手帳などを利用して、生まれる前からの自分の情報を含め、健康のための情報を自分自身が見ることができる仕組みです。医者に行かなくても、自分の医療情報を自分自身が確認できるようになると良いのではないのでしょうか。

さらに、ビッグデータで三田市全体の傾向が見て、子供たちの健康をサポートすることが出来れば、若い世代が三田市に来ると思います。

ビッグデータを個人個人に還元できる仕組みがスマートシティでは大事だと考えます。

また、三田市に新しい人が入って来てもらうためには教育も大切です。子どもたちのプロフィールを管理して、学校教育ではカバーできない範囲を、お年寄りや専門家がサポートする仕組みも出来るのではないのでしょうか。三田市は良い教育をしているということで、若い人の転入も増え、お年寄りの経験も生かすことが可能です。



ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」!

■ 農業など

- 農業の後継者や持続させる方法
- 農業の担い手不足と食料自給率

■ 教育など

- 教育格差
- 公文が近くにない
- 不登校の子ども達の気軽に行ける場
- 中学校が遠い(らしい)
- 子どもが自分から勉強しない
- AI時代と子どもの学力向上。教育のあり方(模索)(集団教育社会性)
- 少子化と学校生活 教育活動出来ないことが増えている…。
- 学力。語る場

■ 子育てなど

- 子どもたちが子どもたちだけで安心して遊べる場所
- 気軽に子どもをあずかれる場
- スマホを持たせる怖さ(PCタブレット)
- ママの子育て相談(赤ちゃんママだけでなく)
- 学童のごはん(夏休みなど)
- 保育園の送り迎え(特に悪天候時)

■ 医療や健康など

- アレルギー科が近くにない
- 医療費子育て世代負担増↑(800円+800円)

■ まちの魅力・買い物など

- 魅力的な商業施設ない
- ちょっとした買い物が遠い
- 大きな本屋さんない! 理想ルクアのTSUTAYA
- お金に関する将来の不安(増やし方や他のポケット)
- 若者の遊べる所がない
- 中高生の学べる場(屋内スポッチャなど)
- 学生の学ぶフリースペース

■ 交通や移動など

- 新三田駅前ロータリーもう少し広くして欲しかった
- 上相野交差点朝だけ点滅でなくなり渋滞する
- 自動運転はとりあえず5G利用。ハイブリッドで
- 最近朝テクノパークあたり渋滞がひどい
- 坂が多い
- ガソリンが高すぎる
- ガソリンが高い
- 山間部のお年寄り、買い物に困っている
- 高齢社会と(介護生活維持)(買い物病院)移動手段

■ 自治会・地域活動など

- 少子化とくらしの維持(平和で豊かな)社会の変化の対応。予測不能
- ニュータウンには住宅が増えるが山間部人口少なくなる
- 過疎化と限界集落(自治活動が維持できない)

■ 人とのつながり（コミュニティ）など

- 地域の居場所 子ども 親世代

■ デジタル化など

- 手続きがいろいろ電子化しても高齢者はついていけない

■ 行政など

- 同じような書類を何回も提出する必要がある（転入時）
- 電子市役所をさらに進めてメタバース市役所へ
- 食料自給率低下と外交問題
- エネルギー確保（不安）（外交問題）

■ 仕事・働き方など

- AI の時代と仕事就業（変化への対応）

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・ 若者が流出する
- ・ 遊ぶ場所がない
- ・ 働く場所がない
- ・ 相談できる場所がない

● 理想のまち

- ・ 若者の居場所がある
- ・ 市民が楽しめる場所がある
- ・ 学べたり、遊べたりできる場所
- ・ 市民・若者にとって魅力ある場所づくり

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「さんだメタバースシティ構想」

若者が三田市から流出しているという課題に対応するために考えました。若者満足度・ニーズ・行動動態といった情報を、Web のビッグデータで把握したうえで、若者のニーズを満たしていきます。

その手法として仮想空間の中に三田市の魅力を体験できる仕組みを作って、そこに訪問してもらおうということを考えました。若者に、仮想空間で三田市に来てもらい、その中には案内所の機能を持たせて置き、三田市についての欲しい情報が得られるようにしておきます。三田の自然や里山も含めて魅力の発信が出来るように作ります。実際に三田で過ごしたらどういう生活が出来るのか、就業体験や、人との出会い、結婚、子育てまでが体験できるようなバーチャルの世界を作ることで、三田の魅力を仮想空間で知ってもらい、最終的にはバーチャルからリアルの移住へとつなげるという構想です。



【11月21日2班 (チーム名: がちゃぼん)】

ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」!

■ 農業など

- 農業に関して後継ぎがない

■ 子育てなど

- 保育所が少ない
- 子ども世代が帰ってこない町

■ 医療や健康など

- 病院が統合されるのが困る (市民病院と済生会病院)
- 通院しないで診察 薬の受取
- 医療費高い
- 市民病院が無くなるおそれが有る
- PCR 検査をする場所が無い

■ まちの魅力・買い物など

- キッピーモール 2F の使用が少ない (阪急百貨店の後)
- 物価が高い
- 高齢化 目耳不自由に→ 区別のない街作り
- 三田駅北側の開発が明確になっていない
- 夜の遊び場が少ない

■ ゴミ・環境など

- 美しい町が壊れていく。環境悪化
- たばこのポイ捨てが多い
- ゴミ収集場所が少ない
- 夕方頃からベランダにコウモリが来る

■ 交通や移動など

- 車がなくなったら病院へ行けない オンライン ドローン (薬)
- 高齢化 ひんぱんに無料バス 自動運転カー
- 市内巡回バスが無い
- 電車の運賃が高い

■ 自治会・地域活動など

- 人材不足
- 自治会員の減少
- 公助共助自助の共助がなくなって来ている 自分ができないことは市がやる

■ 人とのつながり (コミュニティ) など

- 人間同志の助け合いが薄い
- 住民のつながりが無くなって来ている
- 市街地農村地ニュータウン住民の活発な交流
- コミュニケーションが困難

■ デジタル化など

- スマホだって指で操作しなくて良い 音声だけで済ませる住民サービス
- 高齢者向けパソコン教室が無い?

■ 行政など

- 市の書類。全部自宅からできるように
- 市民税が高い

■ 仕事・働き方など

- 三田市内で求人が少ない

■ 防災など

- 防災の備え 要支援者の対応 専用の避難場所方法
- 避難場所が明確になっていない

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・設備や診療科目が充実しており市民病院がなくなると困る
- ・市民病院では診察・投薬に時間がかかる
- ・市民病院に行くための交通が不便（特に免許返納したら）

● 理想のまち

- ・安心して医療が受けられるまち

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「さんだスマート医療システム」

必要な人に早く安く安全に医療を提供できること。高齢化によって多くの患者が病院に来られるが、待ち時間を減らせないだろうかという課題を考えました。

スマホの自己申告やスマートウォッチを利用して、客観的に状態を把握することが可能です。AIが問診をして医師の代わりに診断してスマートな行動を提案してくれます。必要な人には、オンライン診療を提供し、緊急事態では自動的に救急車を呼ぶような仕組みも考えました。それぞれの患者の状態に応じて適切な行動をサポートしてくれます。

AIが通院が必要な人、投薬が必要な人、そうでない人を分けて、必要に応じて病院の予約もしてくれます。通院にあたっては送迎をしてくれるのですが、その移動は3班の「スマート交通システム」で出来るので、玄関に立ったら車が来てくれて待ち時間も無く、医師の診療を受けられます。必要な薬はドローンで配送もしてくれ、病院には本当に必要な人だけが行くようになっています。必要な人に、必要な時に、必要な医療を届けます。



ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」!

■ 農業など

- 農業の担い手が少ないため、農地の荒廃
- お米作り
- 農村の人口減少がすごいので村がなくなる

■ 教育など

- 通学路の安全性
- 学校の統廃合により田舎のよさがなくなる

■ 医療や健康など

- 老々介護になりそうで困る
- アパートにすんでる人が高齢者ばかりである

■ まちの魅力・買い物など

- 買い物するのに神戸・大阪まで出掛ける必要がある
- 三田駅回りの商店街に活気がもどる
- 銭湯がなくなる
- アパートの家賃が高すぎる
- 飲食店の閉店が早い
- 健康で生きられるか心配
- こんな田舎はイヤだと息子が帰って住むのをイヤがる
- 大学や学校が多いわりには学生があまりいないような気がする
- 若者が楽しい店少ない

■ ゴミ・環境など

- 住宅地に太陽光発電が設置され、反射光がある
- 町のゴミ回収が家の前まで来てくれること
- 三田は寒い
- 鹿やアライグマやハクビシンが住みついている
- 教育会館で朝6時7時にサイレンが鳴る
- 夜暗い（あかりがない）ので、外出がしづらい
- TVアンテナ。多分共聴アンテナ？ 写りが悪いチャンネルあり

■ 交通や移動など

- 交通が不便
- 駅が遠く、車がないと生活できない
- 18時以降に便（バス）がない
- 朝夕、通勤通学者の送り迎えで渋滞する
- バスの便数が少ない
- バスの本数が過疎地域が少ないが未来はどうなるのか
- 運転免許を返したいが交通が不便 三田に行くのに1日仕事になる
- 道路整備が遅れている 危険な所そのまま放置されている

■ 自治会・地域活動など

- コロナで村（50数件）の活動（集会老人会文化会等）中止で情報共有が出来ない

■ 行政など

- やたら警察が防犯登録で自転車をとめる
- 市の窓口対応が悪い。言動がキツイ

■ 仕事・働き方など

- 職をみつけても距離があるので続けにくい。老母と同居のため安定職につけない

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・交通の便が悪い
- ・若者の流出
- ・高齢者は通院しにくい
- ・通勤・通学の不便さ

● 理想のまち

- ・交通の便がよく、高齢者、現役世代、学生など誰もが移動しやすいまち
- ・今後、老人世帯が増えるので、その生活がしやすい町
- ・老人が多くなり、その介護がいきとどいた町
- ・若い家族が多く住みやすい町
- ・川あそびの出来る町
- ・子供の養育がしやすい町
- ・第1次産業でくらせる社会を作りたい
- ・ゴミ回収日増やしてほしい

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「さんだスマート交通システム」

バスなどの本数が少ない、料金が高いといった交通の課題について考えました。

各自のスマホ活用するなどの方法で利用者の移動ニーズをもとに、AIで分析し、配車を行っていくシステムです。こういったシステムは、人が多いニュータウンにはメリットがあり、安く提供できると考えられますが、一番大事なのは人が少ない地域にどう対応できるかということです。

小型のバス運行、有償の個人運送のボランティアや、安全な車をカーシェアする仕組みなども考えました。高齢者になって免許証を返納する場合にも対応できるようにする必要があります。いつでもどこでもいけるサービスを提供したいと思います。

利用者が少ないところにも、こういったシステムを浸透させるための工夫を市も協力して、ライフラインを整えていく観点で取り組むことが大事だと考えます。



ワークショップ ①「住んでいて困っていることを洗い出そう」！

■ 医療や健康など

- 医療かかりつけの先生が高齢化
- 産科が市民病院だけ
- あらゆる年齢層あらゆる病気に対して待ち時間なしで診察治療する「総合病院」
- “かかりつけの医師” がないのでどの病院に行くのが良いのかわからない

■ まちの魅力・買い物など

- 品質の良い食材 おしゃれな衣服を買えるお店
- 身内の年老が買物をするのに困っている
- フラワータウンにコンビニが少ない

■ ゴミ・環境など

- 分別されていないごみがある
- ごみがカラスにやられている
- 庭が荒れている
- 庭をステキなガーデンにしたい
- まちが雑草だらけ 落ち葉が多い
- 歩道が雑草だらけ
- 公衆トイレが少ない？（市街地）
- 冬の17時越えのジョギングは少々こわい

■ 交通や移動など

- 子供が就職する時、三田から通勤時間のかかるところ
- 計画運休 大型台風になったら帰って来れない
- 24時になったら三田駅にタクシーが少ない
- 24時こえて新三田駅寝過ごす JR は地獄（相野から歩いた）
- 飲みすぎた時に帰る手段がない
- 藍本駅が地味 通過時気分をあげたい
- 高齢者の移動手段がない
- 買い物する生活するのに車が必要
- 仕事先に行くのに高速代がかかるお金をかけないと時間がかかる
- 近くにバス停がない
- 歩道がボコボコ。歩き（走り）にくい
- 道路がでこぼこになっている
- フラワータウンはきつい 坂が多い しんどい

■ 自治会・地域活動など

- 自治会の加入者減少
- 会計や予算作成に手間がかかる
- 自治会の集金に手間がかかる
- 会議の案内や議事録に手間がかかる
- 自治会役員が回ってくる（誰も会長になるかビクビク）

■ 人とのつながり（コミュニティ）など

- 地域に関わる活動をしている人と簡単につながりたい
- 他人の手助けできる人が少ない
- 飲み会がなくなった
- 友だちが地元にはいない！！
- 子供とか同級生とか三田を離れたがる

■ 行政など

- 税務署に必要な手続きがわからない。めんどう
- 三田市LINEの使いどころがわからない（理解したい）

■ 仕事・働き方など

60歳～65歳以上の退職者が働ける職場を探せる手段・機能。何か新しいことをしたいなあ

■ 住宅など

- クローゼットの中にカビが生えてきて困っている
- 浴室暖房をつけて欲しい

ワークショップ ②「住みやすいまちってどんなまち？理想のまちは？」

● 現状・課題

- ・ 三田で過ごすのに楽しそうなことがない
- ・ まちに魅力がない（美術館・博物館がない）
- ・ 魅力はあるけど知らないのでは
- ・ 三田の魅力を知る機会がない
- ・ メジャーな施設がない
- ・ 友達が少ない
- ・ 買い物するところが無い

● 理想のまち

- ・ 同じ関心事をもつ仲間がいる（作れる）まち

ワークショップ ③「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」

「この指と～まれ」

三田には楽しいことがたくさんあるのに、それを知る機会が無いのではないかとこのところを課題として考えました。三田特有の楽しいことがあるのに、分野別の情報提供が出来ていないということです。

自分の興味・関心ごとのある人が一緒に楽しんでいける仕組みを考えました。三田に住んでいたら自分の興味や関心ごとを一緒に楽しんでもくれる人がどんどん増えるようになれば、みんながハッピーになれるというビジョンを描きました。

プラットフォームとして、自分の興味があるアクティビティを入力できるサイトやアプリをまず作ります。そこに「いいねボタン」「やったねボタン」というものを作ります。三田の知っていること、場所、お店など、登録した事柄に対して、共感する人は「いいねボタン」、実際にそこに行ってみた人は「やったねボタン」を押してもらいます。共感者がどれだけいるのか、それを見て行動した人がどれだけいるのかをデータで可視化する仕組みです。これによって、同じ趣味や境遇を持つ仲間を見つけ、共感し、つながり、リアルでも交流することが出来ます。



【11月21日ライブ配信班 チーム名：いまふー（今風）】

交通の問題について議論をしました。移動手段をの解決について考えることもできますが逆転の発想で、目的の施設を利用しやすい場所に移すというコンパクトシティのような考え方もあるのではないのでしょうか。

どこに住んでいる誰がどういう用事でどこに行っているかといったデータを分析することで、コンパクトシティで施設を集約する場合も、納得感を高めることが必要と考えました。また、自転車の活用や地域の連携・つながりで解決する課題もあるのではないのでしょうか。

講師より11月20日のまとめ

非常に白熱した議論が行われ、また良いアイデアが出たと思います。このワークショップでは、参加者のみなさんが市民の目線で考えた、ということが良い点です。自分自身の住んでいるまわりのことを考えて、こうあったらいいなという観点、目的志向で議論することが非常に大事です。スマートシティはそこに住む市民や、その産業のために行うことであるからです。

技術先行でサービスを導入するという考え方もありますが、それらは実装されたら市民の税金を使うものです。そういったサービスをお金を払っても使うのだろうかというシビアな考え方も必要です。

各班のアイデアを全部やろうとすると3年以上もかかるでしょう。スマートシティの取り組みでは、出来る部分から小さくスタートしていきます。機能としては小さくて動くものを作ります。開発に期間をかけている間に、世の中のことも変わってしまいますので、まずは迅速にやることを小さくやるということで、アジャイル開発という考え方です。

今回のワークショップはこれで終わりではありませんし、今回のアイデアをさんだ里山スマートシティの中に一部でも取り入れていきたいと考えています。

- ・企業が考えつかないところで、参加者の方から様々なご意見が出てくるのがとても参考になりました。
- ・私は三田市の住民なので、全て共感できるものでした。このワークショップはこれで終わりではなく、こういったアイデアを三田市の計画の中にどう落とし込んでいくかということ三田市の職員と議論していきたいと考えています。
- ・こんなに白熱したワークショップに参加したのは初めてです。みなさんがどれだけ三田市のことを考えているかということ強く感じました。このようなボトムアップ的な地域づくりが大切です。



講師より 11 月 21 日のまとめ

今日のアイデアで出たサービスを全て三田市でやる事が出来たら、三田市がすごく魅力的になると思います。技術ベースではなく、スタートはみなさんの課題で考えているので、とても実現性が高いものです。

今回のワークショップは 100 点満点です。それは、三田に住んでいる皆さんならではの三田愛にあふれるアイデアが出たからです。地域の課題をどう解決するかという、目的志向でやるのが大事なところ。また、男性、女性、年代も様々、多様な人が集まって議論するのが大事です。みなさんの住みたいと思うまちが描けたでしょうか。

